

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
八代市	①学校運営上の課題	いじめや不登校など生徒指導上の課題への対応	市全体で、児童生徒の別室登校が増加しており、教員による別室登校対応が負担となっている。	地域のボランティアによる別室登校児童生徒対応を週に1日以上実施する。	地域のボランティアによる別室登校生徒対応により、児童生徒の心の安定と居場所の確保を実施する学校数を増加する。また、教員の業務負担の軽減につなげる。	地域のボランティアによる別室登校生徒対応を実施した学校数	7	校	8	8	3 ・別室登校児童生徒が該当する学校においては、退職教職員や地域住民の支援により活動ができている。
八代市	①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	市内の教員の約4割が月45時間以上の時間外勤務を行っており、教員の業務負担軽減が課題となっている。	市内全ての公立小中学校に地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)を配置。地域との連絡調整や人材確保等を行い、教職員の業務負担軽減を図る。	学校・家庭・地域の役割分担の明確化により、地域との協働が進み、教員の業務負担が軽減する。	学校における働き方改革につながると思う学校の割合(学校へのアンケート調査)	56	%	65	54	3 ・活動の取組について85%の学校において「教職員がある程度理解している」との回答があった。教職員を対象とした意見交換会の開催などに努め、支援員を活用することが業務負担に繋がる旨を周知していく。
八代市	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	地域学校協働活動を進めていくうえで、地域人材の発掘が課題となっている。	地域学校協働活動ボランティア人材バンクリストの整備。	ボランティア人材バンクを充実させることにより、各種調整に係る負担を軽減し、地域との協働活動を推進する。	ボランティア人材が不足していると思う学校の割合(学校へのアンケート調査)	10	%	7	13	2 ・コロナ禍から脱却し、活動の増加、多様化したためにボランティア人材不足になったと考えるが、高齢によるお断りされるケースもあるため、学生を含め若い人材の発掘が早急に必要だと考えている。
八代市	②学校と地域の課題	その他	地域学校協働活動を進めていくうえで重要な役割を担う地域コーディネーターの方の知識、スキルの向上が課題となっている。	各種研修や連絡調整会議の開催により、地域コーディネーターの情報交換の場の確保やスキルアップを図る。	地域人材のスキルアップにより地域学校協働活動の推進に寄与する。	連絡調整会議や各種研修が役に立ったと思う人の割合(地域コーディネーターへのアンケート調査)	51	%	65	77	4 ・地域コーディネーターと教職員のコミュニケーションの重要性について、他市町村の成功事例等の情報提供を積極的に実施していく。また、地域コーディネーターとしての役割と資質向上についての有益な研修を開催し、スキルアップを図る。
八代市	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	コロナ禍の影響もあり、多様な人と交流する機会が減り、社交性や自己肯定感が低い子供が増えている。	学校現場以外の人や地域の人との触れ合いを通して社交性や自己肯定感を高めるため、放課後子供教室や様々な体験活動を推進する。	放課後子供教室や様々な体験活動を通して、児童生徒が主体的に学び、自己肯定感が向上する。	自分にはよいところがあるか?の項目について「当てはまる、やや当てはまる」と思う児童生徒の割合(全国学力・学力状況調査より)	76	%	80	77	3 ・調査の対象者と放課後子ども教室の参加児童が同じではないため参考値としてとらえているが、児童生徒における前向きな回答数が増加していることは望ましいことであるので、引き続き地域学校協働活動の活用により新たな体験を提供し、心身の成長を支援していく。
八代市	②学校と地域の課題	その他	学校の窓口になっている教頭・主担教諭以外の教職員と地域コーディネーターとのコミュニケーションが不足しており、事業を知らない、活用につながらないケースが発生している。	担任を持つ教職員と地域コーディネーターとの情報共有及びコミュニケーションが取れるような意見交換会等を実施する。	夏休み期間中に教職員への研修会と地域コーディネーターとの意見交換会を開催し、また、地域学校協働本部だよりを教職員全員に発行することにより、事業の周知率が向上する。	教職員への研修会参加学校数(全39校)	32	校	39	36	3 ・行事や病気により参加できなかった学校があった。引き続き全ての学校からの参加を目的とし研修会を開催する。なお不参加の学校に対しては、会議の資料を送付し情報を共有した。また、研修後に受領したアンケートについては、教職員の疑問、質問に対して事務局からの回答を添えて送付するなど、小さな疑問に対しても丁寧に対応していく、積極的な活動につなげていく。
八代市	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	社会に開かれた教育課程の実現のためには、すべての地域住民に地域学校協働活動を理解し、協力してもらえる環境を整えていく必要がある。	市民に地域学校協働活動について周知徹底を図り、一人でも多くの理解者、協力者を増やしていく。	広報紙、ケーブルテレビ、協議会だより、SNS等への情報発信や各種団体会議へ参加するなどして理解者を増やしていくことにより、協力者が増える。	啓発活動数	8	回	15	6	3 ・啓発活動回数は少なかったが、全世帯への配布となる広報誌やコメンだよりによる周知と、児童生徒の保護者を対象とした安心安全メールによる周知を実施するなど、多くの市民に「地域学校協働活動」の周知はできたと考えている。